

# 「現代人の心」に関する調査研究

## 第2報 短大生の心に関する一考察

堀川 京子・小林 壽子

### 1. はじめに

「現代人の心」に関する読売新聞社の全国世論調査\*を参考に2回目の調査を行うことにした。前回の調査結果では世論調査と本学学生を比較したところあまり違いが見られない結果に終わった。今回も第1報と同様に本学学生を対象に行うことにした。調査の趣旨として①本学学生の心を見る②学年別で心を見る③1年生から2年生へ進級した学生の心の違いをみるの3点である。

### 2. 調査方法

○対象：本学学生1, 2年生

○実施人数：65名（1年生：47名、2年生：18名）

○実施時期：平成14年12月中旬

○結果：「ふだんゆとりを持って生活しているか」という質問に対して2年生では前回と差がなく、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が61.0%であったのに対し、1年生は同じ質問の回答が44.7%と低い値であった。

「日頃心配したり不安に思ったりするか」という質問を複数回答で答えてもらったところ、両学年とも「自分の将来について」がほぼ90.0%であった。2年生をみると「自分や家族の健康や病気」が前回では5.3%であったが、今回は44.4%と違いを示した。

「最近、ストレスを感じることもあるか」という質問に1年生は「よくある」を53.2%と高い値を示し、全体で89.2%がストレスを感じたことが「ある」と答えている。「ある」と答えた学生に「どのような場所でストレスを感じるか」と質問したところ、全体では「職場や学校にいるとき」が64.6%であった。2年生をみると前回では「家にいるとき」が21.1%であったが、今回は44.4%と違いがみられた。その他の回答で「アルバイト先で」という回答もあった。

「心の支えになる人はいるか」という質問を複数回答で答えてもらったところ、「友人、知人、恋人」が全体で87.7%、次に「家族、肉親」73.8%、続いて「学校の先生、恩師」20.0%とあった。

「周囲で増えてきていると思う人」を複数回答で答えてもらったところ、「自己中心的な人」が全体で69.2%と高い値を示した。

最後の問いとして「今のあなたを総合的にみる」を6項目にわけて回答してもらったところ、「身体面」では両学年とも「よい」が30.0%前後であり、「精神面」「経済面」では「ふつう」が40.0~50.0%であった。「幸福感」が「ある」「ない」「わからない」で答えてもらったところ、1年生では「ある」が51.1%、2年生では「わからない」が55.6%とあった。「意欲」について同様に答えてもらったところ、1年生では「ある」が53.2%、2年生は「わからない」が66.7%であった。「将来性」については「わからない」が両学年とも60.0%以上の値を示した。

### 3. 考察

今回の結果からいくつか特徴がみられた。趣旨ごとに考察すると①ほとんどの学生が「学校」でストレスを感じているということ、それは今の勉強の大半が将来に関わることであり、常に同級生の姿を見て緊張し、不安を感じることが多いためであると考えられる。②2年生は授業単位も取得、進学・就職の見通しもでき、後は卒業を待つと考えている学生が徐々に増えていることから「ゆとり」があると感じているのに対し、1年生は授業数の多さとこれからの学生生活、試験、就職への不安がから「ゆとり」を感じる事が少なくなり、それに伴って「ストレス」を感じ、結果のような値がみられる。「意欲」については勉学、経験等求める事が多いことから1年生に高い値がみられる。

②2年生に進級したことで変化がみられたのは「不安」に感じる事が「自分・家族の健康と病気」に向けられていること、「ストレスを感じる場所」に「家」が含まれたことから、将来のこと等家族で話し合う機会が増え、ストレスを感じる事が多くなったことや視点が学校生活から家族へ社会へと移行する時期であると考えられる。

以上、学生には様々な不安、ストレスを乗り越えて自分を掴みとり、この学生生活では自分を鍛え、たくましく社会に貢献できる人へと育ててほしいものである。そのためには教育者はその手助け、励ましを精一杯行うことが、最大の使命である。

\*読売新聞 2001年12月7日発刊(23)12版